

【練習問題】

次の文章は、『枕草子』の一節で、中宮定子に仕えていた作者が左衛門の尉則光など一部の人士にしか居所を教えずに里下がりをしていた頃の記事である。則光は、作者の居所を知りたい宰相の中將齊信ただのぶに問いつめられても知らないふりをしてとぼけていたが、ふとしたことで笑いかけられそうになったので、傍らにあった海藻を口に含んでその場をしのいだ。以下は、その数日後の話である。これを読んで、後の問いに答えよ。

夜いたくふけて、門をいたうおどろおどろしう叩けば、何のかう心もなう、遠からぬ門を高く叩くらむと聞きて、問はずれば、滝口たきぐちなりけり。「左衛門の尉の」とて、文を持って来たり。みな寝たるに、火取り寄せて見れば、「明日、御読経みよとぎょうの結願けつがんにて、宰相の中將、御物忌ものいみに籠りたまへり。』いもうとのあり所申せ。いもうとのあり所申せ」と責めらるるに、ずちなし。さらにえ隠し申すまじ。さなむとや聞かせたてまつるべき。いかに。仰せに従はむ」と言ひたる返事かへりごとは書かめで、布ぬめを一寸ばかり紙に包みてやりつ。

さて後、来て、「一夜は責めたてられて、すずろなる所々になむ、率すてありきたてまつりし。まめやかにさいなむに、いとからし。さて、など、ともかくも御返りはなくて、すずろなる布の

【出典】

『枕草子』

時代：平安時代

ジャンル：随筆

作者：清少納言

【重要語句】

- いたく・いたう
- おどろおどろし
- かう
- 心なし
- 文
- ずちなし
- さらに〜打消
- え〜打消
- さ
- いかに
- やる
- さて
- 一〜
- すずろなり

問一 傍線部1「さなむとや聞かせたてまつるべき」・3「すずろなる所々になむ、率でありき
たてまつりし」を現代語訳せよ。ただし、傍線部1については「さ」の具体的内容を、傍線
部3については「誰を」を明示せよ。

3	1

問二 傍線部2「返事は書かで、布を一寸ばかり紙に包みてやりつ」とあるが、作者はどんな意
図でこのようなことをしたのか。後の和歌を参考にしながら、三十字以内で説明せよ。

--	--

〔古典常識〕

- 左衛門
- 宰相
- 中将
- 滝口
- 読経
- 結願
- 物忌

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。(設問の都合で、送り仮名を省略したところがある。)

子墨子謂公良桓子曰、「衛、小国也。処於齊・晋之

間、猶貧家之処於富家之間也。貧家而学富家之衣食

多用、則速亡必矣。今簡子之家、飾車数百乘、馬食

菽粟者数百匹、婦人衣文繡者数百人。若取飾車食馬

之費与繡衣之財、以畜士、必千人有余。若有患難、則

使数百人処於前、数百人処於後、与婦人数百人処前

後、孰安。吾以為不若畜士之安也。」

(『墨子』による)

問三 傍線部②「簡_二子之家」とあるが、子墨子は「子之家」の状況をどのようなものとみなしているか。わかりやすく説明せよ。

--	--

問四 傍線部③「不_レ若_二畜士之安也」とあるが、子墨子はどのようなことを言おうとしているのか。わかりやすく説明せよ。

--	--